

足立区立郷土博物館 だより

2021 spring No.75

特集

博物館の「展覧会」が 開催されるまで



今号では、知られざる!?博物館の仕事の裏側を、

展覧会が開かれるまでのプロセスを例にご紹介します。

当館では、区制八〇周年記念事業として始まった文化遺産調査が継続中です。

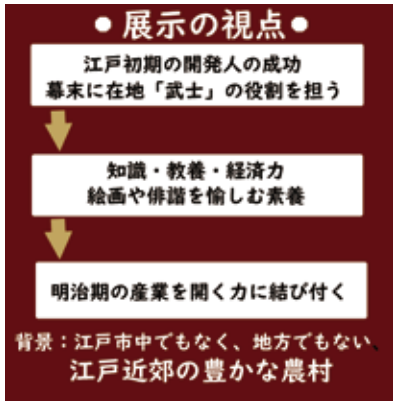
昨年度も「名家のかがやき―近郊郷土の美と文芸―」を開催し、調査の一端をご披露しました。

展示の視点を定める 調査と研究

●調査・研究の成果 展覧会でご紹介したのは、日比谷家・石出家という、ともに江戸期に足立区域を開発した一族に伝えられた、古文書・工芸品・絵画などのさまざまな資料です。調査はまず、資料の性質や、なぜそれがそこにあるのかということ、明らかにしていくところからスタートします。

日比谷家の調査では、所蔵者の方が中心となって研究会を開催し、四年前から情報共有してきました。その結果、専門研究者により、日比谷家とご親戚の三郷の加藤家が明治一〇年に発行したドイツ語辞書が、日本で最初の民間出版辞書であることや、雛人形が、幕末江戸古今雛として最上質なものであることが発表されました。

●展覧会の視点を定める そこです。最初に博物館では、研究会の発表を踏まえ、左図のような視点で展覧会を構成



点で展覧会を構成することを決定しました。次に地域の歴史・文化的特徴をご理解いただけるよう、展示資料を選んでいきます。

ポイント

その資料が「何か」を第一歩に、資料にある背景を、今までの情報と併せて研究。調査・研究の成果を「仮説」として発表。

展覧会の準備

●資料の出展交渉 調査・研究と並行して、出展資料の借用交渉を行います。通常、会期の半年前には、所蔵者・所蔵機関への申し込みと承認をすませます。一年以上前にお願いくることも少なくありません。

●印刷物の作成 ポスターやチラシを制作します。当館の場合は、開催約3か月前にあらかじめ原稿を準備するところから始まります。ポスター七五〇枚、チラシは八千枚ほど作り、開催ひと月前には完成させ、区内および他の博物館等へ郵送します。

●事務的手続き 外部のプロの手を借りて進める仕事もあります。(1)ポスター・チラシ・図録制作のデ

三か月前	二か月前	一か月前	展示開催
ポスター・チラシ契約決定 制作開始		納品 配布開始	
図録契約決定 印刷物写真撮影	図録制作開始	納品	図録発送
		資料料輸送契約決定 資料輸送	▶ 演説
	演説具制作契約決定 演説具制作開始	納品	
		ネームプレート作成 自作分パネル作成	
		取材対応	取材対応

ザインを行う印刷業者、(2)借用先の資料の梱包輸送を行う美術輸送業者、(3)展示台や解説パネルの制作を行う展示業者等がそれぞれです。

●博物館職員の仕事 プロの手を借りるとはいえ、博物館職員が動かなければ進みません。専門業者に仕事を依頼する前に、職員が以下の点を準備し決定しておきます。

博物館職員が準備・決定すること

印刷物関係
 ポスター・チラシの写真・原稿
 図録の頁割、原稿・写真
美術輸送関係
 借用資料のリスト（種類・採寸・評価額）
 作業人数、車両の大きさ、梱包の仕方
 借用先との日程交渉 申請の書類
演示具関係
 展示の際の解説パネルや看板の大きさ・枚数
 解説原稿や写真
 展示台などの形や大きさ、点数

そしていよいよ、展示ひと月前になると仕事が集中し忙殺されます。

「演示（飾りつけ）」も館の職員が行います。パネルを打ち付けたり、展示台を運んだり、壁を組んだり、資料を並べる前の下作業から、最後のライティングまで、演示は肉体労働。作業着であちこち動き回っています。



「タイムスリップ昭和家電」展
 資料点数が多い増田コレクションを演示。のべ作業人数も最大になりました。【上】演示中の様子、【下】完成した展示



準備中の展示室と完成した展示室

照度を絞り墨蹟を保護すると同時に、当時、実際に資料を見ていたころの灯りも想像できる静かな空間が完成。（平成30・2018年「幕末明治の名筆展」）



最後の仕上げライティング

資料とパネルがよく見えるようにしつつ、資料の材質によって照度が高すぎないように調整。またガラスへの映り込みがなるべくないように配慮します。昇り降りを繰り返し、かなりの時間と体力を消耗する作業です。

わかりやすい
 親しみやすい
 展示のこころみ

博物館や美術館

の展示に、難しさや堅苦しさを感じる人も多いと思います。そこでなるべく大勢の人に興味をもってもらえるように、イラストや漫画の他、形に合わせて切り抜いた切り出しパネルを使ったり、ツイッターで発信したりするなど、数々の工夫をこらしています。

二〇一九年開催の「足立の三国志」

志は、中世の足立区域を紹介した展示。展示資料は古文書が中心でした。希少な中世文書は見るだけで興味深いのですが、一般の方には少し地味な印象を与えるのではと危惧しました。



コーナーパネルの補助に、漫画風に表現。

第三章 足立区をめぐる攻防
 第一節 北条氏の進出と葛西城

34	『小田原衆所領役帳』	永禄2年	1559
35	太田家記		
36	北条氏康判物（本田家文書）	（永禄5年）3月21日	1562
37	北条氏康判物（本田家文書）	（永禄5年）3月21日	1562
38	北条氏康判物（本田家文書）	永禄5年3月22日	1562
39	北条氏政判物（本田家文書）	永禄5年4月16日	1562
40	本田家譜（本田家文書）		

第二節 国府台合戦

41	歌川広重「名所江戸百景 鴻之台とね川風景」		
42	歌川広重「東都名勝図絵 道灌山」		
43	関東古戦録 3冊（5・6）		

「足立の三国志」展示資料の一部
 古文書が多い。



切り出しパネルでキャラクターがお出迎え
人気投票も…キャラクターが、古文書中心の展示を楽しく
見る手助けをしてくれました。

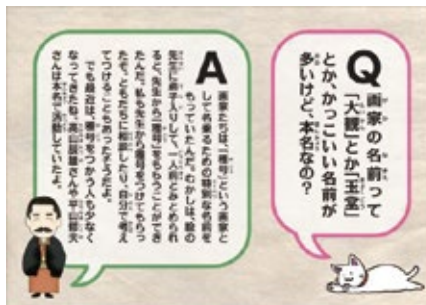
そこで思い切って魅力的な戦国武将キャラクターを
プロのイラストレーターにデザインしてもらい、このキ
ャラクターをアイキャッチに、戦国時代の込み入った
情勢を伝えました。人物像がイメージしやすく、理解
しやすいという感想もいただきました。イラスト化さ
れた武将は、中世史研究者からも大好評でした。
平成三〇（二〇一八）年「幕末明治の名筆展」では、
出展資料の作者でもあ
る名筆家三人をイラス
ト化し、解説者として
登場してもらいました。
また、展示用の布マネ
キンを利用して人形を
つくり、博物館入口横
の舞台で展示し、展覧会
への導入としました。



幕末の名筆家をイラスト化
(職員が描きました)



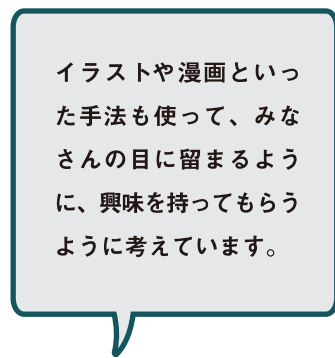
職員手作りの人形
展示用の布マネキンを利用した勝海舟(左)
と山岡鉄舟(右)。



日本画Q&Aのパネル
足立ゆかりの画家「高橋廣湖」をイラス
ト化した「こうこ先生」が日本画につい
てQ&Aで解説。



「博物館のいっぴん展」
キャラクターはぬいぐるみとなってツイ
ッターにも登場。



「巨匠の日本画」
「博物館のいっぴん」展で
使用したキャラクター。

平成三二（二〇一九）年の「すごい絵・巨匠の日本
画」、二〇二〇年の「博物館のいっぴん」展では、博
物館のネコのキャラクターが活躍しました。



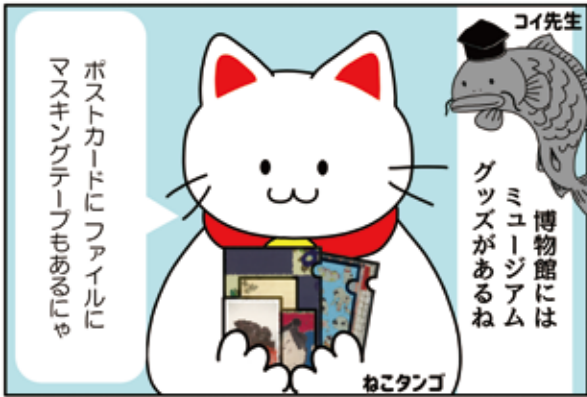
テレフォンカードになった三枚続の浮世絵
「両国納涼花火大会」 歌川広重
当時は500円の度数に制作経費がついて800円で販売されて
いました（ちょっと高いですね）。三枚続の浮世絵で、一枚ずつ
作ったので、一番右端が最後まで残ることに…。

オリジナルグッズの制作

展覧会の観覧のあと、記念にグッズ
を購入するのも楽しみの一つです。展
示を見た記念と思い出に、また、セン
スのよいデザインにひかれて購入され
る方も多いと思います。

当館の資料をデザインしたグッズ
をご覧になった方に「どこの博物館
のグッズかしら？」と、足立区の博
物館に興味・関心を持っていただく
ことを目的に制作しています。ささや
かですが、宣伝活動のひとつとして、
郷土博物館の資料や活動を記憶に
とどめていただければ幸いです。

おみやげに 博物館をどうぞ



そのむかしは、テレホンカードが定番グッズのひとつでした。人気のクリアファイルは、環境に配慮して、今は紙ファイルに変身。近年人気のマスキングテープ（模様をついた装飾テープ）には、昨年初めてトライ。グッズにも時代の変化が感じられます。

気軽に求めただけけるよう価格は百円から五百円とリーズナブルに押さえています。一番人気は絵ハガキですが、他にも当館オリジナルかつ、みなさんに喜んでいただけるものと、常に知恵をしばっています。

これまでの展覧会の図録や報告書なども有料頒布しています。ときどき、窓口で何冊も図録や報告書をお買い求めになるお客様もいらっしゃいます。グッズや刊行物はホームページでもご案内していますので、ぜひ一度ご覧ください。

上品な一筆箋は、
千住の文人、建部巢兆の大和絵
『盆踊り』をデザイン



『四季草花図小襖』の紙ファイル
足立江北の豪農にして
谷文晁の弟子、船津文淵の作です。

狩野常信が描いた絵を
狩野派の門人が描き写したとされる
『百獣図』のマスキングテープです。



郷土博物館のグッズの一部